

ねらい

具体的な直接体験から数量・図形などに関心をもったり、感覚を得たりする。

小学校教育への
つながり

遊びや生活の中で、小学校の算数科につながる原体験ともいえる遊びや生活を大切にする。
教師が意図して、遊びや生活の中で子どもが数量や図形に直接触れる環境を構成する。

実践内容



使いやすいように、同じ種類のものを集めて置きます。使う時、片付ける時に子どもたちは「分類する」という行動やその意味を自然に身に付けていきます。



毎日使う椅子も、5脚ずつ片づけています。数字「5」を明示するなどして物の数と数字が視覚的に結びつく工夫をしています。



ままごとの道具は、それぞれの置き場所に絵で示し、形や大きさの合った道具が片付けられるようにしています。丸、四角、様々な形に興味を持ち、きちんと片付けることで不足分を探す行動が生まれます。



スコップもかけるフックとスコップが1対1対応になるようにしています。一目で過不足が分かり、ひとつずつ大事に片付ける意識が育ちます。

●月●日●曜日、毎日数字や曜日を見て、自分の出席ノートと見比べながら楽しそうにシールを貼ります。毎日することで、数字に親しみ、数字や順序、一週間の単位に気付いたり、覚えたりしていきます。



いろいろな形の箱が分類された環境。形や素材を認識しながら遊びに必要なものをつくったり、転がして遊んだり、積み上げて高さを意識したり、形や素材の特性に対する感覚が育ちます。



積み木を安定良く積む方法を友達と相談し協同して遊びます。こうした遊びの中で、積み木の形や大きさなど図形等に関する関心・感覚が育っていきます。



スナップエンドウの収穫。子どもたちは喜びとともに、数の多さにも感激し、自ら数え出します。その後は、「いくつずつもらえるか」という必要感が生まれ、「分ける」行動も出てきます。その方法は様々で友達と試行錯誤の連続。対話したり、葛藤したりして、多くのことを学びます。



保育を振り返って

様々な素材(紙、箱、水など)、おもちゃや用具(積み木、砂場・ままごとなどの遊具や用具)、収穫物等に関わり、必要感から数えたり、比べたり、片付けの中で過不足を知ったり、就学前施設的环境は「算数の宝庫」と小学校の先生に言われることもある。保育者の意図ある環境構成と援助が子どもの学びに生きていく。就学前施設の保育者も1年生の算数の教科書や授業に学び、見通して、遊びや生活の中で具体物に関わり、数量、形、時間などの感覚を育てることを大事にしていきたい。